

☆作業日あれこれ

2月の定例作業日も1月に続き天候に恵まれませんでした。観察会が始まる頃には吹雪となりましたが、いつものように人が集まってくるのがいかにも遊林会です。そんな吹雪の中、吹雪ちゃんによる観察会開始です。今回は冬芽や葉の落ちた跡の形の面白さの観察です。サシヨウの冬芽は、対生している2本の棘の間に複葉(小さな葉が集まって一枚の葉です)の葉が落ちた跡があり、その上に今年の葉になる芽が付いています。凹んだ葉跡の中には葉につながっていた導管跡の2つの丸が目に見え、全体が顔のように見えます。その上にある冬芽は帽子、両側の棘は両手を広げたように見え、「さあー拍手喝さいを！」と言っているようです。観察会はここから脱線、山椒に関するうんちくが始まりました。サシヨウは雌雄異株で、実のできる実山椒が雌で花しか咲かない花山椒が雄です。若い実は佃煮に、熟した実は果皮をワギの蒲焼でお馴染みの粉山椒や七味に利用します。ちなみにサシヨウの英名は、japanese pepperです。若葉は吸い物や山椒味噌、幹はすり鉢に使用するすりこぎ、これはしてはいけませんが樹皮はかつて川魚採りの毒流しに使われ、捨てる場所がないのが山椒です。家の周りに植えておくと重宝するのですが、栽培上の留意点は根があまり張らないので水やりと、この木を食草にするアゲハチョウの幼虫の食害で、うっかりしていると小さな木なら丸禿にされてしまいます。この森には、山椒以外にイザナシヨウ(犬山椒)、カラスサシヨウ(烏山椒)、それらの交雑種とも言われるコカラスサシヨウ(小烏山椒：この森では希少植物)が自生しています。観察会はその後、梅の蕾の観察に場所移しましたが、途中、ムササビ、ワギなどの冬芽をルーペで観察、日頃目にしない小さな自然の妙に「カワイイ！」を連発していた担当の吹雪ちゃんには、ギャラリーの皆からは「俺らがカワイイと言っても似合わないけどな・・・。」と言われておりました。

参加者は最終的に 40 人弱、作業班は三班+



拍手喝采サシヨウ冬芽

αとなりました。雪で荒れた竹林の整理と増え過ぎているシュロ退治班と、チェーンソーを使用して折れた枝の伐採・整理班が野外の作業です。もう1班は昼食作りで、ふろふき大根、白菜と豚肉の煮浸し、ウィンナーも入った手作り餃子鍋などを調理していました。かつて遊林会の活動を始めた頃、餃子鍋は交流広場の大きなアザシの樹の下で、料理長(そんな時期もあったのです!)が作る定番料理でしたので、「懐かしいなあー！」と言ったら「今回の餃子は手作りですからね。冷凍じゃありませんよ。」とビシッとと言われてしまいました。

プラスα組は、焼成した竹炭の窯出しに励む炭焼名人と弟子候補生、黙々と独りで林床整備をする丸などでした。竹炭は自慢の出来だったようです。退治しているシュロ(棕櫚：ヤシ科)は森のいたる所に生えていますが、ヒトリなどの鳥が運んだ種から芽生えたようです。今は邪魔者として伐採していますが、この棕櫚も田舎の生活には欠かせない物で、我が家の裏庭にもありました。まず葉は割いて繊維状にし皮をむいた柿を両端に結んで(そのために渋柿を収穫するときには枝を付けたままにします)竿に吊るす干し柿づくりや蠅叩きに利用しました。樹皮は水に強く屋外で使用する棕櫚縄、丈夫さで上等な箒に利用しましたので、樹皮を買い求めて集落を回る商売もありました。今でも園芸では竹垣や木の支柱をくくるのに棕櫚縄を多用していますが、国産材料の使用は少ないようです。幹は堅くて腐りにくいので釣鐘の撞木利用が定番ですが、雪深い地では屋根の雪止めにも利用しました。山椒同様に棕櫚も捨てる場所のない物だったのです。



雪の森を走ります

和やかにお昼のミーティングを終えたところで、「予定していた作業を午前中に終えましたので、午後は自由作業とします！」との宣言があり、午後は青年剣士や定番のない陶芸家による腕に自慢の薪割大会のようになりました。

3月の作業日は

3月28日(水曜日) 週日活动 森の居酒屋は3月7日 午後7時頃～
9時～(遅刻可)

主催者：遊林会

連絡先(遊林会事務局)：滋賀県 東近江市 河辺いきものの森 Tel 0748-20-5211 Fax 0748-20-5210

URL : <http://www.yurinkai.org/>

E-mail : ikimono@e-omi.ne.jp

森のブログは「かわべえブログ」で検索!

第4水曜の作業は好天に恵まれ23人が参加。この日の作業は久しぶりの伐採作業です。しかしいつもと違うことは、今回の伐採はサクラということ。サクラを切るとは何事！と言わないでください。今回伐採したサクラ（カミザクラ）は、森の保全が始まってまだ間もない頃に藪の中で見つかった大木で、日光を好むサクラの生育条件としては相当に劣悪な状況に置かれていました。そこでこのサクラに日が当たるようになりかなり高度な作業を行い、以来、毎年ヤザクラより少し遅れて咲く真っ白なサクラの花を見せてくれていたのです。しかしこのサクラの大木も衰弱が著しく、昨年頃よりずいぶんと先枯れが目立ってきました。ところがこの木の根元からは、ちゃんと次に育つべき若い幹が生えてきていたのです。ただ衰弱してきた親木が影となるため、その若い幹に十分な日が当たりません。こうして、若い世代に託すべく親木を切ることにしたのです。

とはいえ、このサクラはかなりの大木で、周囲には他にも大きな木がたくさん生えているので、倒す時それらの木に掛からないよう伐倒方向をピンポイントで定めないとはいけませんでした。しかしそこは水曜日のメンバー、まさにここしかないという場所に見事倒すことができました。

倒してみると、予想通り芯が既に腐っていましたが、使える場所は工作の材料に使うということできちんと玉切りして整理しました。

その後、まだ時間があつたので別のサクラの大木に影を作っているアザミも伐採しました。

この日のお昼は松本料理長がご不在でしたが、スタッフ得意のしゃぶと豚肉のくたくた煮をはじめ、あつたか料理をおいしくいただきました。

午後からは、以前台風で倒れたイザクラの丸太を使って、木道から降りるための丸太階段を新調しました。

★2月の木ままクラブ

気軽に気ままに木曜日に活動する木ままクラブ。2月は2回の活動を行いました。

2/2 12人 ケキ広場への植栽準備として、植樹場所へのマキング用および草刈り機からの保護のための竹杭を作るために、雪で曲がった竹を切り出し大量の杭を作りました。

2/16 9人 待望のケキ広場への植栽をしました。そのまま放置すれば枯れてしまうケキ等の実生苗を森から掘り、条件の良い場所に移植しました。

3月は1日、15日が活動日です

★河辺いきものの森スタッフルーム情報

2月は「逃げる」と言いますが、本当に"アツ"という間に、逃げ去っていきました。2月は、外で体を動かすよりも、室内のパソコンの前ですぐず時間の方が長かったスタッフ。デスクワークは肩が

こったり、目が疲れたりと慣れないためか、疲労とストレスのたまる状態になってしまっていました。そんな中癒しをくれるのは、やはり子どもたちの笑顔と森の自然たちでした。2月中旬に寒波が訪れ、その後は暖かな日々が続いていました。すると下旬には、梅の花が咲き出し、足下にはフキや材木ノグサなど、早春を告げる植物たちがたくさん!!今年は例年に比べ、花の開花などは遅いようですが、着実に春は近づいてきているのだなあ～と嬉しく思うことができました。これから3月、4月とかわいい花が咲き出しますね!とっても楽しみです!

★10周年特別イベント

2012年3月で河辺いきものの森はオープン10周年を迎えます。これまでの森への入場者数は20万人を超えました。感謝を込めた特別イベントのお知らせです!

* The 100 (ザ・ハンドレッド)

～森にある100問の挑戦をクリアしよう!～

3月27日(火)～4月8日(日) 何と100問の挑戦が森の中に待ち受けています!! ○×クイズや3択クイズ、森の中で探し物や拾い物、ドンガラ鉄砲や難しい弓矢など盛りだくさん!! 挑戦者には素敵なプレゼントもありますよ!

* 10周年感謝祭 もりもり満喫まつり

3月24日(土)・25日(日) 10周年を記念して、今までで好評だった、クイズラリー・的当て・竹の薄切り競争など多くのアトラクションを、森の中に設置し、森で一日遊んでもらおう!というイベントです。子どもたちにとって楽しいアトラクションばかりですが、大人の方の参加も大歓迎です!詳しくはホームページをご覧ください。

子どもも大人も、ぜひ10周年を迎えた河辺いきものの森に遊びに来てください!

★モリイコ!の子どもたち

今回のモリイコは、「冬の森たんけん」がテーマです。週末に天気が崩れるジメジメは健在で、今回はそれが功を奏してか、毎回「雪の森」を楽しむことができました。子どもたちは、森のあちこちに残るキツネやウサギの足跡を辿ったり、自分が動物になったつもりでかくれんぼをしたりと、汗をかくくらい楽しんでいました。最後にはとおき、「河辺の森おんせん(足湯)」をみんなで作って、雪を見ながらほっこりと温まりました。

★3月の作業は…

積雪のため今年ほとんどできていない落ち葉かきをぜひしたいのですが…天気次第ですね。

容器やコップは数に限りがあります。食器の持参をお願いします!

発行者：東近江市建部北町 河辺いきものの森材木センター内 遊林会 世話役 武藤精蔵 Tel 0748-20-5211

この用紙にはkikitoペーパーを使っており、滋賀県湖東地域の森の保全に寄与しています